

万一の災害に備えて

六月二十三日

防災訓練を実施



電車ごっこと違ってみんな真剣

り、てきばきとお年寄りや園児らを避難させました。
午後からは明見の市有地で十二消防団二百七十五人が夏季訓練を実施。放水による標的倒しやドラム缶への注水競技などが行われ、琴平分団が優勝しました。



概要を説明する公団の職員

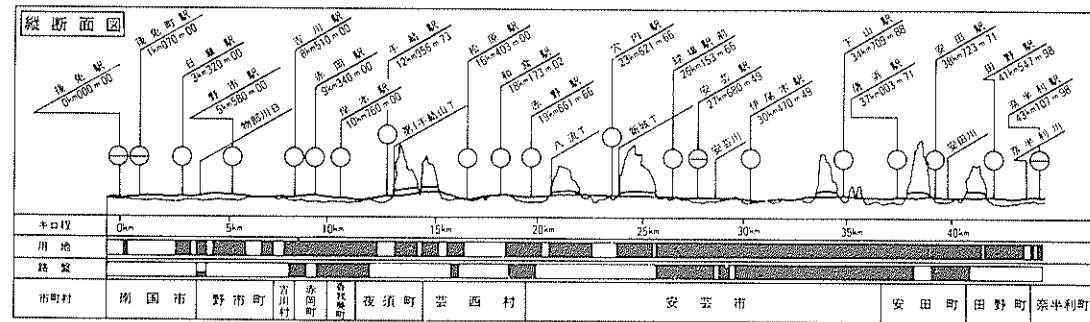
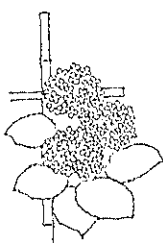
阿佐線建設に向けて

市内の関係地区で 測量説明会を開催

市民の生命を風水害などの災害から守ろうと六月二十三日に南国市防災訓練が実施されました。
中心気圧九五〇、半径二〇〇以内は風速二五を超す大型台風〇号が高知県東部に接近、市内各地区で風水害や山崩れ、がけ崩れなどが発生したという想定で市内の消防団の団員をはじめとする関係者約五百人が大湊保育所、土佐清風園、徳島幼稚園で避難訓練。本部からの指令により、各訓練場所に集合した消防団員が一斉に現場に急行、各中隊長の指示によ

阿佐線建設のための測量調査についての説明会が六月七日の地区代表者に対する説明会を皮切りに市内の関係地区で行われています。
阿佐線は、JR後免駅から奈半利町までの延長四三・一の路線です。当初は南国市後免から徳島県牟岐に至る路線として計画、昭和四十年に安芸田野間工事を開始しましたが、五十六年の国鉄再建法の施行に伴い工事が中断されました。しかし、阿佐線は高知県中央地域と東部地域を結び基

幹的な交通機関、生活路線としてのみならず、産業、観光、地域開発など東部地域の活性化のために不可欠な路線であるため、六十一年に第三セクター土佐くろしお鉄道株式会社を設立、工事再開に向けて働きかけを行いました。六十二年度の工事再開にあたって奈半利町までという条件が課せられ、阿佐線建設促進協議会をこれを了承。今年一月に鉄道免許が交付され、三月に起工式を行いました。日本鉄道建設公団では今後次の



ように計画を進めていく予定です。

センター活動の

あり方を考える

少年補導育成センター連絡協議会



110人が参加して活動について研究

また深夜徘徊なども大きな問題となっています。
この連絡協議会は、このような状況を踏まえ、時代の流れと変化に対応するセンター活動のあり方を探ろうと、毎年一回開いているものです。
会では、六十二年度の事業報告

や決算報告、六十三年度の事業計画案、予算案の承認が行われ、会長に高知市少年補導センターの松村光正所長を再選しました。
続いて、土佐山田教育委員会の高野祥子研修指導員が「青少年の深層と生徒指導」と題し、スライドなどを使って子どもたちの内面を知ったうえで指導することの重要性や教師と生徒の信頼関係の大切さを述べました。
午後からは、四つの分科会に分かれて、より良い活動のあり方について話し合いを行いました。

言」と題して、土佐弁を交えたユニークな語り口で記念講演。続いて六十三年度の事業経過報告や六十三年度の事業計画の決定などが行われました。
なお、史談会では会誌「南国史談」第一号から第四号を一冊五百円で一般に頒布しています。ご希望の方は南国市教育委員会社会教育課までご連絡ください。

慣れた手つきで...

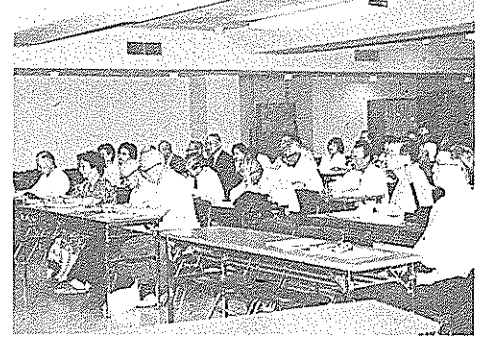


山あいに 子供たちの歓声 白木谷小で田植え

米作りを通して親の苦勞を知り、物を作る楽しさ、収穫の喜びを体験させようと、六月十一日、白木谷小学校(吉森俊策校長)で全校児童四十四人が先生といっしょに田植えを行いました。
今回の体験学習には、みんなにご飯を食べてもらって、米の消費拡大をしようというねらいもあり

ましたが、みんなご飯が大好き。この朝も全員ご飯を食べてきました。
そのせいかどうか元気いっぱい。PTA会長の中間邦夫さん提供の約七坪の水田のあちこちから、楽しそうな歓声。
約二時間で田植えが終わり、みんな下口まみれでしたが、満足したような笑顔にあふれていました。米作りはこれからがたいへんですが、みんなで力を合わせて、立派な米に育ててくれるでしょう。
収穫した米はもち米と交換して来年二月に完成予定の体育館落成式の祝いにすることになっています。

郷土の文化の 向上を目指して 第4回史談会定期総会



記念講演を聴く会員

南国史談会の第四回定期総会が、六月十日に会員約五十人が出席して市役所大会議室で開かれました。
南国史談会は、南国市を中心とする歴史、地理、伝説、民話など